

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第1回フォーラム研究会
議事録

日時：平成25年5月24日（金） 13：00～17：00

場所：東京大学工学部12号館地下1階007号室

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、崎田（元気ネット）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）

配布資料

- F1-0. 議事次第
- F1-1. 平成24年度報告書抜粋（フォーラムに関する部分）
- F1-2. 第1回フォーラムスケジュール表
- F1-3. フォーラムへのご協力をお願い
- F1-4. 平成25年度第1回フォーラム開催のお知らせ
- F1-5. 平成25年度フォーラム参加者一覧
- F1-6. 平成25年度第1回フォーラムに関するアンケート（案）

議題

1. フォーラムに関する情報の確認
2. 実施アンケートの確認
3. その他

1. フォーラムに関する情報の確認（配布資料 F1-1～F1-5）

木村氏より、資料 F1-1 を中心に、フォーラムの設計が確認された。特に重要であると再確認された点を以下にまとめる。

- ・ 観察者の目的（≒参加者の目的）の再確認。
⇒ 「ムラびと」と「市民」との協働によって「原子カムラ」を越えるという最終目標に一步踏み出すために、「ムラびと」と「市民」とのコミュニケーションの場（フォーラム）を設計し、「ムラびと」と「市民」の相互作用（ダイナミズム）を学術的に記述し、「原子カムラ」を越えるための要件を洗い出す。
- ・ オープンエンドのコミュニケーション・フィールドであること。
- ・ フォーラムの公開に関する基本方針については、念入りに認識の共有がなされた。
 - フォーラムの内容は、個人が特定できない形で公開する。公開内容の最終判断は木村氏が行う。実施者側の発言は、研究実施者に関しては記名で公開する。
 - 自己紹介時の発言は、個人が特定されるおそれがあるので、公開しない。
 - 写真の撮影も行う予定。ただし、記録同様、参加者の同意を得た上で、個人が特定されない形でのみ使用する。

また、資料 F1-2 のスケジュール表を順に確認しながら、変更点、注意事項の確認がなされた（細かな確認事項については割愛する）。

- ・ 各自の役割の確認、変更、決定がなされた。
 - 崎田氏は総合ファシリテーターに徹することにする。（司会進行も行う）
 - サブファシリテーターに円満字氏を追加する。

【受付～開始前】

- ・ グループワークの班を振り分けるのに用いるくじは、誰がどのくじを引いたかを受付が記録する。そのことで、誰がどの班にいたのかを把握でき、記録が容易になる他、次回以降の班分けの参考にできる。
- ・ A4 の自己紹介用紙は、市民はピンクの紙、専門家はブルーの紙で色分けする。あらかじめその紙を席に互い違いに置いておき、専門家同士、市民同士が固まって座らないようにする。
- ・ A4 の自己紹介用紙は、フォーラム開始前に記入するよう参加者に指示する。また、「このフォーラムに期待すること」も、キーワードを記入してもらう。

【イントロダクション】

- ・ 自己紹介の時間は、参加者は 1 人 1 分、運営者は 1 人 30 秒。
- ・ 「フォーラムの進め方」については、契約的側面もあることから、丁寧に説明し、質問時間も十分に確保する。

【グループワーク】

- ・ 参与観察は木村氏、大石氏、竹中氏が担当。
- ・ グループワーク 2 を 30 分→20 分、グループワーク 3 を 30 分→40 分に変更。
- ・ グループワーク 1、2、3 の冒頭に、まず総合ファシリテーターがそのときにすべきことを全体に説明する。その後各グループでサブファシリテーターがフォローする。
- ・ グループワーク 3 で、全員のコメントが出た後に、再度（他の人の意見を聞いた上での）意見を募る。関連する意見は追加で貼る。まったく異なる視点の意見が出た場合は、黄色のポストイットに本人に書いてもらい、模造紙に貼る。
- ・ 「全体発表」は 1 グループ発表 3 分、質疑 5 分。
- ・ 「次回について」は全体発表の直後に変更。全体発表の内容を受けて、次回のテーマを参加者全員で決めることとする。

これらの変更を踏まえ、木村氏を中心にスケジュール表の修正が行われることとなった。

2. 実施アンケートの確認（配布資料 F1-6）

フォーラムに関連して行うアンケートには、フォーラム開始前、終了後に行う分量の多いアンケートと、各回終了時に行うアンケート（A4 両面程度）がある。

前者については、前年度に行なった社会調査と全く同じものを参加者に郵送し、記名で回答してもらうことになっている。ただし、アンケートは封印して回収され、フォーラム開催期間中は土田氏のみが内容を閲覧できる旨を参加者には伝えている。

後者のアンケートも、参加者各自の変化を追跡したいため、記名で行うことが望ましい。一方で、参加者同士や、運営者全員に見られるとなると、本音が引き出せないおそれもある。そこで、こちらのアンケートに関しても記名で行い、記名のデータは土田氏が管理することとした。参加者同士で互いに見せ合うこともしない。フォーラム当日は、参加者にアンケートを封筒に封入してもらい、土田氏が回収する。

一方、今後のフォーラムの設計は、アンケートの意見を踏まえて行うべきである。そこで、土田氏がデータを匿名化し、運営者全体に共有することとした。

また、フォーラム当日に実施するアンケートの内容について検討がなされた。下記を踏まえ、木村氏、竹中氏により修正されることになった。

- ・ Q3 は、単に「気付き」とだけ記すと、意味が分からない方もいるのではないかと。
→「新しい気付きや発見」と、より具体的に記す。
- ・ Q4「次回のテーマ」は、アンケート記入前に話し合うことに変更したので、不要かと。
→意見表明の場として、書く欄は残しておいたほうがいだろう。

→「次回以降のフォーラムで話し合いたいテーマ」に変更。

- ・ Q8「原子力発電をやめるための許容できる電気料金の上昇量」は削除し、代わりに自由記述欄を設けてはどうか。(土田氏：研究会には欠席したが、電話にてコメント)

3. その他

今後フォーラムは2週間おきに実施されるが、その間に1回ずつフォーラム研究会を開催し、フォーラムの内容の検討をする必要がある。第5回までのフォーラム研究会の日程を決定した。日程を以下に記す。

第2回研究会：5月31日（金） 13：00～16：00 →第2回フォーラム：6月8日
第3回研究会：6月19日（水） 10：00～13：00 →第3回フォーラム：6月22日
第4回研究会：6月28日（金） 13：30～16：30 →第4回フォーラム：7月6日
第5回研究会：7月12日（金） 13：00～16：00 →第5回フォーラム：7月20日

また、フォーラム終了後開催されるシンポジウムについては、9月14日（土）または9月16日（月・祝）を候補とすることになった。場所は都内を予定している。

フォーラム参加者にはあらかじめ日程を告知すること、参加は必須ではなく謝金も出ないこと、代表して発表した方には講演謝金という形で謝金をお支払することなどが確認された。

以上